

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-265183  
(P2003-265183A)

(43) 公開日 平成15年9月24日(2003.9.24)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	FI	テマコード(参考)
C12N 15/09	ZNA	A61K 45/00	2G045
A61K 45/00		A61P 1/00	4B024
A61P 1/00		15/00	4B050
15/00		35/00	4B063
35/00		C07K 16/40	4B064

審査請求 未請求 請求項の数 34 0L (全27頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願 2002-74117(P2002-74117)	(71) 出願人	000003001 帝人株式会社 大阪府 大阪市中央区南本町1丁目6番7号
(22) 出願日	平成 14年3月 18日(2002.3.18)	(72) 発明者	安井 秀一 東京都日野市旭が丘4丁目3番2号 帝人 株式会社東京研究センター内
		(72) 発明者	江口 広志 東京都日野市旭が丘4丁目3番2号 帝人 株式会社東京研究センター内
		(74) 代理人	100099678 弁理士 三原 秀子 最終頁に続く

(54) 【発明の名称】トリプシン様酵素DESC1およびその利用法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 活性を有する真の構造の活性型DESC1蛋白質の取得する。また、それによる粘液産生亢進作用、EGFR経路活性化作用、サイトカイン産生亢進などによる炎症亢進作用、細胞内カルシウム流入惹起作用、PAR活性化作用、プラスミノゲンアクティベーター活性化作用を阻害する薬剤をスクリーニングする方法およびその活性を検出するための評価系を構築する。

【解決手段】 特定なアミノ酸配列で示されるプロペプチド部分がトリプシン様蛋白質部分とジスルフィド結合を介して結合する構造を有したDESC1、ならびに該構造を有する酵素の粘液産生亢進作用、PAR活性化作用、細胞内カルシウム流入惹起作用、IL-8産生増強作用あるいは細胞増殖促進作用を指標とした阻害剤あるいは阻害ポリペプチドのスクリーニング系、該構造を有する酵素と結合する抗体等。

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-59531

(43) 公開日 平成16年2月26日(2004.2.26)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	FI	テマコード <sup>*</sup> (参考)
A61K 38/43		A61K 37/465	4B024
A61K 35/16		A61K 35/16	ZNA 4C084
A61K 48/00		A61K 48/00	4C087
A61P 25/24		A61P 25/24	4H045
C12N 15/09		C12N 15/00	A

請求項の数 4 審査請求 有 0L (全7頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	2002222685	(71) 出願人	501362814 株式会社 エーティーラボ 秋田県秋田市卸町3丁目4番2号
(22) 出願日	平成14年7月31日(2002.7.31)	(71) 出願人	502020951 杉山 俊博 秋田県秋田市御所野元町6丁目8-1
		(74) 代理人	100110537 【弁理士】熊谷 繁
		(74) 代理人	100060427 【弁理士】藤盛 道夫
		(72) 発明者	杉山 俊博 秋田県秋田市御所野元町6丁目8-1
		(72) 発明者	増田 豊 秋田県秋田市金足小泉字湯向103-5

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 向精神作用を有するヒトベータ-フィブリノーゲン由来ペプチド断片を含むうつ病治療薬並びに診断薬

(57) 【要約】

【課題】本発明は、うつ病治療薬及びその診断薬としてヒトベータ-フィブリノーゲン由来ペプチド断片及びその合成ペプチドを提供することである。

【解決手段】一群5匹、7グループのマウスにペプチドGを5mg/kgの量で腹腔内に注射した。投与10分後、各グループのマウスに、水で溶解した100、10および1µg/kgのドーパミン1拮抗剤SCH-23390またはドーパミン2拮抗剤sulpiride(シグマ社、セントルイスMO、米国)あるいは100µlの生理食塩水(PS)を注射した。

2回目の注射30分後、マウスの「よじ登り行動」の継続時間を測定した。

「よじ登り行動」に対する効果があったのはボランティアから採取した血清(50-100mM NaClで溶出し、分子量10-3kDa)であった。しかし、ボランティアの血清から得られた他の分画や患者血清のいかなる分画にも効果が見られなかった。

【選択図】 なし

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-155776

(43) 公開日 平成16年6月3日(2004.6.3)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	FI		テ-マコ-ド <sup>*</sup> (参考)
A61K 38/00		A61K 37/02	ZNA	4C084
A61K 35/74		A61K 35/74	G	4C085
A61K 39/395		A61K 39/395	T	4C087
A61P 35/00		A61K 39/395	Z	4H045
// C07K 14/34		A61P 35/00		

請求項の数 9 審査請求 未請求 0L (全25頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	2003355731	(71) 出願人	801000061
(22) 出願日	平成15年10月15日(2003.10.15)		財団法人大阪産業振興機構
(31) 優先権主張番号	2002299774		大阪府大阪市中央区本町橋2番5号 マ
(33) 優先権主張国	JP		イド-ムおおさか内
(32) 優先日	平成14年10月15日(2002.10.15)	(74) 代理人	100115347
			【弁理士】 松田 奈緒子
		(74) 代理人	100107515
			【弁理士】 廣田 浩一
		(74) 代理人	100107733
			【弁理士】 流 良広
		(72) 発明者	目加田 英輔
			大阪府枚方市香里ヶ丘6丁目19-2
		(72) 発明者	宮本 新吾
			福岡県福岡市南区野間4丁目26-17

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 制癌剤

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、悪性腫瘍、特に卵巣癌の治療に有効な制癌剤を提供する。

【解決手段】 ジフテリア毒素の変異体であってHB-EGFとEGFレセプターとの結合を阻害する活性を有しかつジフテリア毒素の毒性を実質的に有さないタンパク質、或いは、ジフテリア毒素の一部からなり該ジフテリア毒素のレセプター結合ドメインを少なくとも含むタンパク質又は該タンパク質を含む複合タンパク質等であってHB-EGFのEGFレセプターへの結合を阻害する活性を有しかつジフテリア毒素の毒性を実質的に有さないタンパク質を、有効成分として含むことを特徴とする制癌剤である。

【選択図】 なし

(19) 日本国特許庁(JP)

# 再公表特許(A1)

(11) 国際公開番号

WO2002/24875

発行日 平成16年1月29日(2004.1.29)

(43) 国際公開日 平成14年3月28日(2002.3.28)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	FI	テラコード <sup>*</sup> (参考)
C12N 5/06		C12N 5/00	E
//(C12N 5/06		C12N 5/00	E
C12R 1:91)		C12R 1:91	

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全17頁)

(21) 国際出願番号	JP2001008168	(71) 出願人	800000024 北海道ティール・エル・オー株式会社 北海道札幌市北区北7条西2丁目8番地1
(22) 国際出願日	平成13年9月20日(2001.9.20)	(74) 代理人	100059959 【弁理士】 中村 稔
(31) 優先権主張番号	2000288291	(74) 代理人	100067013 【弁理士】 大塚 文昭
(33) 優先権主張国	JP	(74) 代理人	100082005 【弁理士】 熊倉 禎男
(32) 優先日	平成12年9月22日(2000.9.22)	(74) 代理人	100065189 【弁理士】 宍戸 嘉一
出願番号	2002529470	(74) 代理人	100074228 【弁理士】 今城 俊夫
(81) 指定国	AP(GH,GM,KE,LS,MW,MZ,SD,SL,SZ,TZ,UG,ZW),EA(AM,AZ,BY,KG,KZ,MD,RU,TJ,TM),EP(AT,BE,CH,CY,DE,DK,ES,FI,FR,GB,GR,IE,IT,LU,MC,NL,PT,SE,TR),OA(BF,BJ,CF,CG,CI,CM,GA,GN,GQ,GW,ML,MR,NE,SN,TD,TG),AE,AG,AL,AM,AT,AU,AZ,BA,BB,BG,BR,BY,BZ,CA,CH,CN,CO,CR,CU,CZ,DE,DK,DM,DZ,EC,EE,ES,FI,GB,GD,GE,GH,GM,HR,HU,ID,IL,IN,IS,JP,KE,KG,KP,KR,KZ,LC,LK,LR,LS,LT,LU,LV,MA,MD,MG,MK,MN,MW,MX,MZ,NO,NZ,PH,PL,PT,RO,RU,SD,SE,SG,SI,SK,SL,TJ,TM,TR,TT,TZ,UA,UG,US,UZ,VN,YU,ZA,	(74) 代理人	100084009 最終頁に続く

【4】 【発明の名称】 正常ヒト成熟肝細胞用培養液

## (57) 【要約】

本発明は、正常なヒト成熟肝細胞用の培養液に関する。

本発明の目的はヒトの正常な成熟肝細胞をその機能を維持したまま増殖および維持するための培養液を提供すること、および、その培養液の正常ヒト成熟肝細胞の培養への使用である。本発明の培養液は、ヒト血清を含むことを特徴とする。特に、本発明の培養液は、必須アミノ酸、ヒスチジン、アルギニンまたはオルニチン、グリシン、プロリン、グルタミン、システイン、セリン、ヒト血清、ニコチンアミド、増殖因子、インシュリン、副腎皮質ホルモンを含むことを特徴とする。

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2003-518378  
(P2003-518378A)

(43) 公表日 平成15年6月10日(2003.6.10)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	FI		テ-マコ-ド <sup>*</sup> (参考)
C12N 1/00		C12N 1/00	F	4B065
5/06		5/00	E	

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全21頁)

(21) 出願番号	特願 2001-548660 (P2001-548660)	(71) 出願人	イソティス エヌ. ブイ. オランダ国, 3723 エムビー ビルトー ヴェン, プロフ. ブロンクホルストラ ン 10
(86) (22) 出願日	平成 12年12月27日 (2000. 12. 27)	(72) 発明者	デ プルイン, ヨースト, ディック オランダ国, 3817 ジェイエル アメル スフルト, パスツールストラート 16
(85) 翻訳文提出日	平成 14年6月26日 (2002. 6. 26)	(72) 発明者	ティベ, ゲルハルダス, ヨハネス, マリア オランダ国, 3815 ジーエム アメルス フルト, ウィークスラヒ 355
(86) 国際出願番号	PCT/NL00/00958	(74) 代理人	弁理士 松井 光夫
(87) 国際公開番号	W001/048147		
(87) 国際公開日	平成 13年7月5日 (2001. 7. 5)		
(31) 優先権主張番号	99204569.0		
(32) 優先日	平成 11年12月28日 (1999. 12. 28)		
(33) 優先権主張国	欧州 特許庁 (EP)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 成長因子及び L - グルタミンを含む細胞培養培地

(57) 【要約】

本発明は、細胞、詳細には組織エンジニアリング骨のためのプロセスでのヒト細胞を培養するための培地に関する。培地は、グルコース、ミネラル、ビタミン、成長因子および L - グルタミンを含み、ここで L - グルタミンは少なくとも 300 mg / L の濃度で存在する。

